



ちょっとそこまで～お散歩日和(地域編)～



# 田柄通り



平成3年(1991年)に当時の都営12号線が練馬駅まで開通するまで、都心に通うには有楽町線の平和台駅を使う人が多かったように記憶しています。その時に利用したのが田柄通りを行き来するバスで、夜遅くなっても、平和台駅前のバス停にはいつも長い列ができていました。田柄通りとは、上図に記したように、光が丘から平和台までのバス通りのことです。その距離わずか2kmほどで、歩いても30分なので、バスを使わずに深夜歩いたことも一度や二度ではありません。

田柄地区を横断しているから付けられた名称だと思いますが、その田柄の由来ははっきりしません。

今ではすっかりバスの利用者は減り、注目する人はほとんどいないと思いますが、今回はその街路樹が少しだけ珍しいので触れてみたいと思います。

この街路樹は2種類です。まず、光が丘から市原医院(田柄1丁目)辺りまでがナンキンハゼです。



日本では古くからハゼノキ(ウルシの仲間)からロウを採取して和ろうそくを作っていました。しかし、江戸時代に中国からこの木が伝わり、「ハゼと同じように蠟が採取できる中国の木」という意味合いでナンキンハゼと命名されたと言います。

他に、紅葉が埴輪の色に似ているため、埴輪を作る埴師(はにし)にちなんで命名されたという説もありますが、前者の方が筋道に無理がないように思います。

ちょうど今、開花時期なの、この街路樹で花を探したのですが、1本も見付かりませんでした。剪定のせいなのか、樹齢が関係しているのか、それとも環境なのか、理由はよく分かりません。



ここで、実について触れましょう。熟すと黒い皮が割れ、白いロウに覆われた種子だけが枝に残ります。このロウの部分は高カロリーの脂質を多く含んでいるため、ムクドリなどの野鳥が好んで食べます。が、中の種子部分は有毒なので食べ残し、それでナンキンハゼは種子散布をすることができるという仕組みです。うまくできたものです。ちなみに、この木は漆の仲間ではないので、幹に触ってもかぶれることはありません。

そして、その先（春日町2丁目）から東側約200mほどがハクウンボクです。



ちょうど今、そのハクウンボクにはたくさんの実が成っています。この実からもロウが取れ、かつてロウソクが作られていた時代がありましたから、奇しくも田柄通りの街路樹はロウソク繋がりということになります。それに、紅葉がどちらも美しいという共通点がありますから、秋の景色が楽しみです。

ここで愉快的なことがもう1つあるので、紹介しましょう。

それは、水野整形外科医院（田柄中隣り）の真向かいに、1本だけハマボウがあることです。海辺によく咲く花なので、「浜の朴木（ホウノキ）」から「ハマボウ」と名付けられたと言われています。でも、だからこそどうしてこんな場所という違和感を強く感じます。どういう経緯を経て現在に至っているのか、神秘的でさえあります。

これは全くの私の想像ですが、道路拡張前から庭に植えられていたものを、珍しいからそのまま街路樹に転用したのではないかと思っています。もしも出会う機会があれば、元地主に尋ねてみたいものだと思います。

その木が、夏の盛りに連日黄色い花を咲かせています。これは1日花なので、毎朝咲いては、毎夕散ってしまいます。その散り方がまた潔く、まるでツバキのように丸ごと落ちていきます。花びらの色も、落下とともに黄色から夕焼け色に染まるので、何か物語を感じさせます。



街の風景に欠かせないのが街路樹です。が、なかなかそこに目が行かないのも事実です。でも、じっくり観察することで、思いも寄らない気付きや発見に触れることができ、その結果、心にささやかな潤いがもたらされます。ちょっとだけ、いつもと違う視線を向けてみてはいかがでしょうか。

（終）